

作物名：いちご

病害虫名：輪斑病（病原：*Dendrophoma obscurans*）



葉の病徴（斑点症状）



葉の病徴（縁枯れ症状）

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・葉、葉柄及びランナーに発生する。
- ・葉では初め紫褐色、不整円形の小斑点を生じ、拡大するにつれて中心部は壊死して、紫褐色となる。病勢が進展すると病斑は明瞭な輪紋状となり、周囲は紫褐色、内部は灰褐色となり、破れやすくなる。葉縁に病斑が進展すると、くさび形の大型病斑となって、葉は枯れ上がる。古くなった病斑上には小黑粒点（柄子殻）をまばらに生ずる。
- ・葉柄やランナーには、炭疽病の病斑に似た赤紫色の浅くくぼんだ病斑を生じ、その周囲は軸に沿って長く赤変する。
- ・育苗床における斑点性病害の多くが本病である。

2 伝染源及び伝染方法

- ・本病菌は被害葉上の柄子殻で越冬し、翌年に柄胞子を飛散して一次伝染する。
- ・葉や葉柄、ランナー病斑上の柄子殻から噴出する柄胞子が、風雨によって飛散し二次伝染する。

3 発病・伝染好適条件

- ・本病菌は糸状菌の一種で不完全菌類に属する。菌の生育適温は 28～30℃で、病斑上には黒褐色、球形で徳利形の柄子殻を形成する。
- ・梅雨期の後半から9月にかけての気温の高い時期に風雨によってまん延する。

4 防除対策

- ・被害葉の病斑が二次伝染源となるので、発病葉はみつけしだい取り除き適切に処分する。
- ・窒素不足や草勢低下によって発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。
- ・育苗中は多湿とならないよう苗の間隔を広げたり、不用な下葉を整理するなど通風をよくする。

5 出典

- (1) 参考文献：日本植物病害大辞典（全国農村教育協会）、農業総覧原色病害虫診断防除編2-②（農文協）、農業総覧病害虫防除・資材編2（農文協）
- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影